

令和5年度

社会福祉法人伯和会

事業報告書

社会福祉法人 伯和会

法人本部

和5年度 社会福祉法人伯和会 事業報告

I 基本的事項

《基本理念》

法人の信条である「奉仕・博愛・寛容」に基づく介護サービスを信条とし、全職員と全利用者の物心両面の幸福を追求し社会福祉の発展を目指しました。

サービス各所を利用することで、今までの生活習慣や個人の意思を大切に自己決定、自己選択、残存能力の活用を図り入居者本人が自立した質の高い生活が送れるよう支援に努めました。

II 経営組織のガバナンスの強化

- 1 理事会 ⇒ 財務諸表や業務執行などの適切な公表に努めました。
- 2 評議員会 ⇒ 法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行いました。
- 3 監事 ⇒ 法人の業務監督及び財務諸表の一層の適正化と透明性の強化を図りました。

III 事業運営の透明性の向上

- 1 財務諸表・現況報告書等の公表
→財務諸表・現況報告書等の設置・閲覧や公表を適切に行い、法人運営の透明性の確保を図りました。(ホームページにて一般者向けに掲載)
- 2 役員報酬基準の作成と公表
→事業運営を明確化し役員報酬基準を定め公表しました。

IV 財務規律の強化

- 1 社会福祉充実残額の明確化
→会計年度ごとに控除対象財産、社会福祉充実残額を明確化しました。
- 2 社会福祉充実計画の作成と実施
→社会福祉充実残額が発生した場合、法人が策定する社会福祉充実計画を作成し確実な実施を図りました。
- 3 財務管理の適正化
→公認会計士の外部指導監査を実施し、適正な財務管理を行いました。

V 地域公益活動の実施

- 1 地域公益活動の検討と具体化
→地域の独居高齢者、障害者、経済的に困窮する者等を支援する。福祉ニーズに対応するサービスの構築を検討し、実現に向け努力しました。

VI 事業収入の安定的確保

- 1 稼働率の向上や各種加算の確保などにより事業収入の安定を図る。
→看取りなどで退居者が続き、入居者を上回ることもあった為、稼働率、収入の安定には繋がりませんでした。
- 2 財務管理の強化と経費削減
→予算管理の徹底や財務管理体制の強化と経費節減に努め経費圧縮を図りましたが、物価高騰で支出増となり経費圧縮とは至りませんでした。
- 3 補助金、助成金の活用
→補助金や助成金を活用し、できるだけ法人財源に繋げ、適切な運営に努めました。

VII 良質な福祉サービスの提供

- 1 利用者の人権人格の尊重
→日常的な接遇点検や、内外研修への積極的な参加を促し、個々の人権意識を高めるとともに制度や知識を深めるようにしました。

VIII 人材確保と育成

- 1 各委員会の活動を通してサービスの質の向上の為の取り組みを推進しました。
- 2 利用者、職員にとって、より安全で安楽な介護を行えるよう目指しました。
- 3 利用者の自立支援促進や、職員の健康管理のため、福祉機器・ICT機器の導入を検討しました。
- 4 サービス評価の実施
→CSの定期的実施や第三者評価の受審を検討しましたが、受審までに至りませんでした。

IX 組織の活性化

- 1 職員の労働環境の整備
→職員の処遇改善や職場環境の整備に努め、職員がいきいきと働けるよう努めました。
- 2 人事考課制度の導入とキャリアパスの構築
→人事考課制度の定着や適切な運用を通して、個々のレベルアップと組織の活性化を図りました。
- 3 職員の満足度調査等の実施
→ストレスチェック等を実施し、ワークライフバランスの乱れや体調不良の継続などでの離職を防止に努めました。
- 4 ICTの積極的活用
→利用者支援の充実や業務効率化推進のため、補助金を活用しICT機器導入を行いました。

X 危機管理の強化

1 コンプライアンス体制の強化

→内部牽引体制の強化や情報管理の徹底、各種法令や基準を遵守し、法人としての信頼性の向上を図りました。

2 危機管理の強化

→リスクマネジメント教育を強化し、安全、安心な体制の構築と、防災対策の定期的見直し、訓練を実施しました。また、BCP についても次年度に向けて策定し、拠点ごとの体制整備、訓練などを計画しました。

3 感染対策

→コロナウイルスの 5 類以降に伴い、法人としての対応など協議を繰り返し、都度対応を行って安心安全に努めました。

XI 理事会・評議員会の開催

下記の通り実施しました。

- | | | | |
|---|------------------|---|----------------------|
| 1 | 令和 5 年度第 1 回理事会 | → | 令和 5 年 6 月 8 日 (木) |
| 2 | 令和 5 年度第 1 回評議員会 | → | 令和 5 年 6 月 23 日 (金) |
| 3 | 令和 5 年度第 2 回理事会 | → | 令和 5 年 6 月 23 日 (金) |
| 3 | 令和 5 年度第 3 回理事会 | → | 令和 5 年 11 月 16 日 (木) |
| 4 | 令和 5 年度第 4 回理事会 | → | 令和 6 年 3 月 18 日 (月) |

令和5年度

特別養護老人ホームえんじゅ
事業報告書(案)

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホーム えんじゅ

令和5年度特別養護老人ホームえんじゅ施設運営方針

I. 施設サービス向上のために

- 1、法人の信条である「 奉仕 ・ 博愛 ・ 寛容 」を基本とし、えんじゅ理念「笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します」「心地良い生活と環境を提供します」「自由で楽しい暮らしを目指します」の3つの柱をもとに、ご入居者それぞれのニーズに合った施設サービス計画書（ケアプラン）を作成し、今までの生活習慣や個人の意思を大切にするとともに、自己決定、自己選択や残存能力の活用を図ることで、少しでも自立した質の高い生活が送れるよう支援しました。
- 2、介護給付対象サービスとして、入居者に対し、入浴、排泄、食事等の介護、相談等の精神的ケア、社会生活上の便宜、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話を提供しました。
- 3、社会福祉法人制度改革、費用負担の公平化、介護保険の改定など施設運営が大きく変化している情勢に対応する為、施設運営における課題、問題点の把握、検証と改善に向けた実践に取り組み、安定した運営と魅力ある施設作りに努めました。また、社会に対し社会福祉法人として求められていることを一つずつ実践していくよう努めました。加えて、職員の自己研鑽による一人一人の質の向上と、地域住民として共に暮らすことを視点とした開かれた施設を目標として、安らぎのある地域社会を作り出せるような施設運営を行います。

《特別養護老人ホームえんじゅ 理念》

- ・笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します。
(笑顔で優しい声掛けを行います)
- ・心地良い生活と環境を提供します。
(清潔保持に努めます)
- ・自由で楽しい暮らしを目指します。
(自己決定を尊重します)

《ワーカー心得》

- ・相手の立場になって物事を考えます。
- ・何故、どうしての問題意識を持ちます。
- ・分からないことはすぐ聞きます。
- ・積極的に行動します。
- ・情報を共有します。

II. 在宅福祉サービスの向上のために

1. 各関係機関との協力体制を図りました。
2. 施設においてボランティアの育成と拡充を行い、福祉の意識高揚に努めました。
3. 地域に支えられた施設であるとの認識を持ち、専門的な働きかけに努めました。行政からの虐待等による緊急入所の相談に関しても、随時相談に応じ、受け入れました。
4. 在宅福祉の充実の為に施設の資源を提供し、地域との交流を積極的に推進しました。地域貢献活動として、白川地区の救援救護講習会に、講師として出席しました。
5. 短期入所事業を行うと共に、各種の福祉サービスの利用法について啓蒙しました。

III. 職員が安心して働けるために

1. 働きやすい職場作りと、勤労意欲の向上に努めました。
2. 給与充実の為に、介護給付費の処遇改善加算・特定処遇改善加算について「加算Ⅰ」が継続できるよう、体制の整備を行いました。
3. 職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。

IV. 適正な事務の遂行

適正な施設運営を実施するために

1. 各種規定に基づいた事務を実践しました。
2. 予算の適正な管理及び執行をしました。
3. 業務の効率化を図りました。
4. 職種間の連絡、周知を徹底しました。

V. 施設設備・備品の保全・改修

1. 照明設備の大規模修繕
 - ・助成金を活用し、照明設備を全てLEDへ切り替える工事を実施しました。
2. ナースコール・通信機器の切り替え
 - ・入居者の安全確保・状態把握及び、職員の負担軽減を目的とし、ナースコールを、見守り機器と連動した物に切り替えました。職員間の通信手段として、インカム、スマートフォンも導入しました。
3. 見守り機器の導入①（眠りSCAN・眠りSCANeye）

・マットレスの下に敷いて「睡眠・覚醒・起き上がり・離床」の状態や、「心拍数・呼吸数（推定値）」を測定できる、非装着・非侵襲センサー《眠り SCAN》を 38 台導入しました。また、《眠り SCAN》が検知した入居者の状態を映像として記録・確認ができる《眠り SCANeye》も導入しました。

4. 見守り機器の導入②（センサー内蔵型低床ベッド）

・センサー内蔵型のベッドを新たに 14 台購入し、入居者の事故防止・安全確保の充実を図りました。併せて、老朽化や不具合が出ていたベッドを処分しました。

5. 壁紙の張り替えについて

・複数個所の居室において、壁紙剥がれ・壁紙の汚染が目立っていたため、傷んだ箇所の張り替えを実施しました。

6. 介護用品・その他備品の整備

・車椅子に関しては、老朽化した物の処分と併せて、家族会からの協賛で、モジュール型の車椅子を 3 台購入しました。また、エアマット、耐圧分散マットレスも追加購入しました。

7. 配管修理

・配管からのお湯漏れ・水漏れが度々発生し、その都度修理を行いました。

VI. 安定的経営基盤の確保のために

1. 安定した収入の確保に努めます。

・空床時の円滑な入居に向け、事前実態調査を実施しましたが、予想を超えるペースで退去者が続出し、思うように満床を維持する事が出来ませんでした。
・水光熱費、備品等の管理、見直しを適宜行い、経費節減を図りました。

2. 施設の設備・備品等の更新・改善を行います。

・入居者の重度化に伴い、各種福祉用具等備品の整備を行うと共に、状態に合わせた用具を購入しました。

4. 人材の確保に努めます。

・学校やハローワークとの情報共有を図りながら、人材確保に努めました。

5. 自然災害等に対する備えを整えます。

・地震、火災、噴火等の非常災害時（今年度は火災想定）を想定した避難訓練を実施しました。職員との連絡ツールとして SNS（LINE）も活用しました。

6. BCP（事業継続計画）の策定

頻発する自然災害に加え、コロナウイルス感染症によるクラスター発生等を想定し、有事の際に被害を最小限にとどめ、速やかな復旧と事業存続ができるよう、えんじゅの現状に即したマニュアルの策定、設備や備品の確保、有事の際のバックアップ体制等の構築を進めました。

8. ICT（情報通信技術）の導入

行政提出文書作成の効率化、エビデンスに基づく介護サービス提供、生産性の向上、働きやすい環境作り、介護業界のイメージ刷新等の理由から、厚生労働省が介護現場の ICT 化を進めていることを踏まえ、Wi-Fi 環境の構築や見守り機器を導入し、ICT 化を進めました。

VII. 人材育成ならびに業務改善に向けた取り組み

1. 業務内容については、各委員会を通して、適宜改善や見直しを実施しました。
2. 内部研修や、書面での研修を実施し、職員の資質向上を目指しました。
3. 『伯和会と職員の皆さんとの約束事（クレド）』と『伯和会職員の「自分ルール」』に記載されている内容を職員が意識的に実践できるように働きかけ、職員誰もが笑顔で気持ちよく働ける環境づくりを進めていきます。

令和 5 年度施設援助方針

I. 日常生活介護

施設サービスは、えんじゅ職員が、ご入居者一人ひとりの施設サービス計画に基づいて提供しました。ご入居者の意思を尊重し、自立支援を念頭に、個々のニーズに沿った支援に努めました。ご入居者の変化しやすい心身状況や日々変化する日常に合わせて、適切なサービスの提供に努めました。

1. 食事

食事は、原則的に食堂で顔を合わせて召し上がっていただきました。ご入居者の状態に合わせて自助具等を使い残存機能を最大限に活用して、できる限り自力摂取ができるよう支援しました。食生活の重要性を認識し、管理栄養士による栄養ケア計画を作成し、ご入居者の健康状態を多角的に評価し、食からの健康維持・意欲向上を図れる事を目標に食事提供を実施しました。栄養バランス・味付け・調理方法等について、身体的条件、嗜好等を配慮し、ご入居者が健康で楽しい生活を送る上で最も大切なもののひとつとして提供に努めました。その時々季節も感じて頂ける様季節食や行事食も提供しました。

2. 排泄

排泄は、可能な限りトイレをご利用いただき、トイレの清潔の保持に努めました。トイレ内にある手すりや緊急コールボタンを利用し、安心して快適に使用できるようにしました。また、個人の排泄パターンを把握するために調査を実施、排泄記録をつけポータブルトイレ等の活用、リハビリパンツ、

尿取りパッド等とトイレ誘導の併用により、できるだけオムツを使わない方法を目指しました。オムツは、座位が取れない、尿意・便意が無い、ご入居者の体調不良等、やむを得ない場合に限り使用しました。オムツ交換及びトイレ誘導は、各個人ごとに調査した排泄パターンを元に、時間や支援内容を設定し実施しました。

3. 入浴

一般浴槽故障中につき、機械浴（シャワーベッド）、中間浴（チェアインバス）の2種類の入浴方法を用意し、ご入居者の身体の状況に応じた入浴サービスを提供しました。入浴日は、ご入居者1人あたり週2回を基本とし、ゆとりをもった、楽しみのある入浴サービスを提供しました。入浴できない方に対しては清拭や衣類交換を行いました。

4. 着替え

利用者一人ひとりの身体の状況をよく見極め、衛生面に留意しながら着替えの支援を行いました。着替えを行うことで衛生面だけではなく、気持ちのリフレッシュを図りメリハリを付ける事で生活全体にリズムを取りやすくし、意欲の向上へ繋げられるよう支援しました。

5. 移動、移乗、体位変換

ベッド、椅子、車椅子、便器、浴槽等の間の移動・移乗は安全性を十分考慮し、ご入居者の身体の状況に合った方法で行いました。また、杖、歩行器、シルバーカー等の補助具を有効に活用し、できる限り自立移動ができるよう支援しました。

自分で寝返りをうつことのできないご入居者に対しては、褥瘡（床ずれ）を防止するために、体位変換の介助、体位変換チェック表の使用も行い、確実に実施できるよう努めます。必要に応じて、クッション、エアマット、褥瘡予防マット等を使用しました。

ご入居者ごとの最適な移動・移乗および体位変換介助方法を、すべての職員が同じ方法で介助できるようにしました。

6. 口腔衛生

夕食後に口腔ケアを実施し、その他口腔内トラブルのリスクが高い方や体調不良者、看取り期に入った方に関しては、都度口腔ケアを実施しました。ご入居者の状態に合わせて、必要かつ適切な口腔ケア用品の使用を行い、歯磨き、うがい、スポンジブラシによる口腔内の拭き取り、義歯の洗浄などを支援しました。

7. 整容

整髪、爪切り、髭剃り等を適宜行いました。

8. 介護用品の選定及び衛生維持、安全点検

ベッド、エアマット、クッション、車椅子、歩行器、杖、介護テーブル、ポータブルトイレ、入浴補助具等の介護用品については、使いやすさと安全性

から選定し、その清潔の維持および安全点検に努めました。

II. 日常生活援助

施設での生活の充実を図るため、ご入居者一人ひとりの生活状況に応じた支援を行いました。

1. 居室環境の整備

ご入居者の意向を尊重しながら、心身の状態、人間関係に配慮しつつ、ご入居される皆様が快適で居心地の良い居住空間を確保できるように努めました。又、介護の安全性を確保するため、必要に応じて居室の変更を行いました。

2. 買い物及び代行

ご入居者のご要望に応じて、随時、外出または通販による買い物支援を実施しました。何らかの理由により買い物ができない利用者の方々へは、日用品の買い物を職員にて代行しました。

3. 洗濯

日常の衣類の洗濯、乾燥、居室への返却を行ないました。衣類の素材の状況に応じて、傷まないような適切な洗濯方法を選び、洗濯を行いました。

4. 理容

頭部の清潔とお洒落を楽しんでいただくため、原則として毎月第2月曜日、理容師によるサービスを提供しました（ご入居者実費負担）。ご本人の希望を伺い、理容組合の方々とも相談しながら、頭の形や髪質などにも気を配りながら実施しました。

5. 外出、外泊

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、外出に関しては制限を徐々に緩和しました。

6. 金銭管理

ご希望がある場合は、現金、預・貯金の通帳、実印等の管理の他、施設利用料や公共料金等の支払い等を担当者にて適切に代行しました。（預り金等取扱規程に基づき、利用料4,000円を負担していただきました。）

7. 行政手続等の代行

ご入居者のご要望に応じて、市町村等に提出する書類の代筆、申請の代行、郵便物等の投函等を、その都度、担当者にて適切に代行しました。

8. 要介護認定に関する代行、認定調査の付き添い

要介護認定の更新・変更申請をご入居者、ご家族に代わって行いました。また、更新調査における付き添いを行い、ご本人の状況などを更に詳しく調査員の方へお伝えしました。

Ⅲ. 健康管理

ご入居者が健康で快適な生活を営めるよう、疾病の早期発見・早期対応に努め、生活の自立性を低下させないように支援しました。

1. 日常の健康管理

ご入居者の健康状態の細かな観察に努め、嘱託医および協力病院への連絡、職員間の情報交換を図りながら、健康維持に努めました。

2. 定期健康診断

胸部レントゲン撮影、心電図、血液検査を、年に1回実施しました。

3. 体重測定

毎月実施し、前月との著しい増減等がないか確認しました。体重変化に著しく違いが生じるご入居者や、栄養状態のチェックが必要なご入居者に対しては、その都度実施しました。

4. 体温・血圧・脈拍等の測定

週2回の入浴前に定期的に体温、血圧、脈拍等の測定を実施しました。その他、体調に変化が見られた際は必要に応じ、適宜測定を行いました。

5. 食事・水分摂取・排泄の把握

チェック表により、毎日の食事摂取量を把握しました。摂食不良時は、医師の指示の下、看護職員、管理栄養士、介護職員、介護支援専門員が連携して、その時の状態に合った食事提供（必要な栄養素の確保）・水分補給ができるように対応しました。その後の経過をみながら食事内容については必要に応じて調整を行い、食事摂取量の安定に繋げていけるようにしました。

便秘時には下剤の服用の他、なるべく自然排便を促すような漢方や乳酸菌飲料等を提供し排便のコントロールを行いました。

6. 医師の診察

月4回、主治医（内科医）が来診する他、月に1回、精神科医が来診しました。通院あるいは入院診療が必要な場合は、ご家族へ付き添いを依頼する他、必要に応じて看護・介護職員が付き添い、施設車両にて送迎しました。

7. 口腔衛生

ご入居者の状態に合わせて毎夕食後に口腔ケアを実施し、体調不良等で食止めとなった入居者に対しては、適宜口腔ケアを実施しました。

8. 服薬

医師の診察のもと、病状に応じて、ご入居者に服薬していただきました。

9. 医療機関との連携

協力医療機関やご入居者の主治医との連携を密にし、日常の健康管理について適切な指示を得るとともに、緊急時の受け入れ先を確保しました。

10. 夜間緊急時の対応

看護職員が不在になる夜間・早朝帯のご入居者の容態の急変に待機の看護

師が対応しました（オンコール体制）。

1 1. 感染症等の予防

コロナウイルス感染症については、2類から5類へ移行したことから、面会や、入居者・職員の行動制限は緩和しつつも、施設内における感染対策は継続し、再発予防に努めました。また、風邪やインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症予防対策として、ご来所者や職員に対して、うがいや手洗いの励行、密を避けた生活様式の実践について周知しました。入居者及び職員に対してインフルエンザ予防接種を実施しました。感染症対策のマニュアルについては、順次見直しを実施しました。

1 2. 職員の健康管理

年1回の職員健康診断（夜勤業務に携わる職員は年2回）を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。直接処遇の介護職員については、年に2回腰痛検査を実施しました。また、年1回のストレスチェック実施により、精神衛生面での健康についても配慮しました。健康診断・ストレスチェックの結果を踏まえた産業医面談も随時実施しました。

令和5年度嘱託医・協力病院

令和6年5月1日現在

《嘱託医》

1、内科医

水野内科クリニック

水野圭司 先生 毎週月曜日 午後
水野友貴 先生

2、精神科医

仙南サナトリウム

渡辺吉彦 先生 毎月第三金曜日

3、リハビリテーション担当

柔道整復師

黒木雄大 先生 毎週水曜日

《協力病院》

1、刈田総合病院（白石市）

2、歯科医

広瀬歯科医院

廣瀬清憲 先生 随時

令和5年度 避難訓練実施状況

避難が困難なご入居者が多い為、定期的な訓練を実施し、ご入居者及び職員に対し防火、防災意識の高揚と地域消防団、地域住民との協力体制を推進しました。

1. 非常災害対策計画に基づき、個別の防災対策の周知徹底に努めました。
2. 夜間及び休日の防災体制を確認しました。
3. 消防設備器具、危険物施設の定期的な点検に努めました。
4. 災害時の非常食については、常時三日分を備蓄、保管しました。
5. 緊急連絡網の確立を図りました。
6. 避難訓練実施計画

<夜間想定避難訓練>

1. 日時 令和5年5月25日(木) 6:00~7:00
2. 目的 施設入居者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用していることの特異性を鑑み、災害に対応する為、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災により、通報、避難、誘導を行い、日中とは違い夜間帯の職員数が少ない状況下での動きを確認すると共に、防災体制の確立を目的として実施しました。
3. 訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
4. 出火時間 午前6時
5. 出火場所 特別養護老人ホームみずき洗濯室
6. 避難場所 えんじゅ東側各非常口付近
7. 職員構成 職員夜間勤務中(想定)による訓練

<避難訓練>

1. 日時 令和5年11月16日(木) 11:00~
2. 目的 施設入居者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用していることの特異性を鑑み、災害に対応する為、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災により、通報、避難、誘導を行い、防災体制の確立を目的として実施しました。
3. 訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
4. 出火時間 午前11時
5. 出火場所 ケアハウスやまぶき内厨房
6. 避難場所 えんじゅ西側の各非常口付近
7. 職員構成 職員勤務中による訓練

令和5年度 えんじゅ短期入所生活介護事業報告

短期入所生活介護事業方針

・短期入所の特徴の一つとして、在宅から施設、施設から在宅と環境が常に変化することが上げられ、生活状況が少なからず違う部分があります。利用前の在宅における生活と利用中の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、利用者同士が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営めるということを念頭に置いて支援しました。また、住み慣れた自宅や生活を共にされてきたご家族らと離れる事により、心理的負担というものがご利用者の皆様には大きいものと考え、一人ひとり向き合い、そして寄り添い、個々のニーズにあった支援を行う事で安心、安全な生活を提供しました。

短期入所生活介護援助方針

- ① 短期入所生活介護の基本定員は10名で行い、居室も専用の居室を準備しました（4人部屋2室、個室2室を使用）。その時々のご利用者の方々の身体状況、精神状況などを重要視しながら、安心かつ安全な、在宅と施設の生活が連続性のあるものとなるよう支援しました。
- ② 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護含む）は、在宅での生活が可能な状態の方で、要介護度が要支援1から要介護5までの方が対象となります。但し、要介護度の利用限度範囲を超えた方については、実費利用と適切な対応により受け入れ対応しました。
- ③ 施設サービス提供にあたり、ご利用者の皆様には介護支援専門員を中心とし、ご利用者の皆様の在宅ケアプランに添った施設ケアプランを作成しました。食事、入浴、排泄などその方に合った形でのサービス提供に努めました。また、入所時より、バイタルチェックを行うと共に自宅における状況、変化、必要な処置等の有無など確認し、利用者の皆様の健康管理に留意しました。
- ④ 日常生活支援については、一人ひとりの利用者の方々に併せた余暇時間を通しての協同作成物の一連の作業～掲示、レクリエーションの実施、季節に応じた行事の開催、手作り昼食会の開催など、個人の持つ潜在能力に働きかける支援内容にて、意味のある個人の存在の理解、役割のある日常を心がけ支援しました。
- ⑤ 長期ベッド空床時は、ニーズに応じて空きベッドを活用し、稼働率アップにつなげました。
- ⑥ 退所時においては、短期入所生活介護利用中における生活の様子をお伝えし、在宅へ帰宅したからの生活が継続出来る様に支援しました。

施設入所実績報告書

利用年月：令和5年4月
 サービス：51 福祉施設
 事業者：特養 えんじゅ
 表示項目：収入実績等

1. 収入実績

令和5年	介護サービス費						特定入所介護サービス費						合計	平均/日
	介護サービス費			食費			居住費			公費負担	利用料	軽減額		
	保険請求	公費請求	利用負担	公費請求	公費請求	利用負担	公費請求	公費請求	利用負担					
	15,243,857	123,321	1,548,932	43,240	1,116,160	880,561	0	593,540	10,760					
今月(4月)	15,155,896	118,457	1,554,227	41,800	1,069,040	873,525	0	582,900	7,700	658,686	26,515	21,238,906	685,126	
先月(3月)	15,620,701	67,650	1,649,049	1,287,400	1,081,080	896,268	0	621,140	10,310	641,665	25,781	21,925,692	730,856	

2. 利用者介護度別

要介護度	令和5年度												合計	平均/月			
	令和4年度																
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
要介護3	9	7	8	8	9	8	9	9	9	9	8	9	8	9	8	100	8.33
要介護4	29	38	37	37	37	37	37	36	36	36	34	36	36	33	31	429	35.75
要介護5	23	14	15	14	15	15	14	16	16	15	17	16	17	16	18	187	15.58
在籍計	61	59	60	60	61	60	61	61	61	60	59	61	59	61	57	716	59.67
総介介護度	258	243	247	242	245	247	251	251	245	247	245	251	245	253	238	2,951	245.92
平均介護度	4.23	4.12	4.12	4.10	4.08	4.10	4.12	4.11	4.15	4.12	4.11	4.11	4.15	4.15	4.12	49.46	4.12
利用(在所)日数(60床)	1,792	1,731	1,810	1,735	1,830	1,792	1,837	1,670	1,736	1,670	1,736	1,670	1,736	1,690	1,527	20,893	1,741.08
入院	1,800	1,800	1,860	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,740	21,960	1,830.00
入院実人数	0	0	0	1	2	0	0	1	2	0	1	4	1	3	1	16	1.78
入院延日数	0	0	0	9	5	0	0	5	48	0	17	46	17	47	6	195	21.67
外泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
外泊延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
居室稼働率(%)	99.56	96.17	97.31	96.39	99.19	99.56	98.76	92.78	93.33	90.86	87.76	90.86	90.86	87.76	90.86	1,141.36	95.11
令和4年度利用(在所)日数	1,792	1,841	1,766	1,824	1,828	1,717	1,694	1,661	1,696	1,569	1,505	1,711	1,680	1,680	1,860	20,604	1,717.00
令和4年度居室稼働率(%)	99.56	98.98	98.11	98.06	98.28	95.39	91.08	92.28	91.18	84.35	89.58	91.99	89.58	89.58	91.99	1,128.84	94.07

短期利用実績報告書

利用年度：令和5年度
 サ一ビス：21 短期入所
 事業者：特養 えんじゅ
 表示内容：利用実績表

令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	21	22	25	27	28	15	19	22	25	22	24	24	274	22.83
利用延日数	200	199	225	233	239	132	172	162	236	230	206	176	2410	200.83
実収入	2,161,862	2,158,403	2,513,973	2,626,361	2,662,233	1,498,326	1,953,744	1,800,069	2,621,633	2,513,864	2,273,133	1,988,599	26,772,200	2,231,017
実収入/日	72,062	69,626	83,799	84,721	85,878	49,944	63,024	60,002	84,569	81,092	78,384	64,148	877,249	73,148
居室稼働率(%)	66.67%	64.19%	75.00%	75.16%	77.10%	44.00%	55.48%	54.00%	76.13%	74.19%	71.03%	56.77%	789.72%	65.81%
前年比(%)	81.63%	98.51%	102.74%	140.35%	181.07%	68.75%	68.79%	70.75%	128.27%	104.54%	80.52%	68.48%	1194.41%	99.53%

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	23	23	24	21	19	23	24	24	10	22	23	23	259	21.58
利用延日数	245	202	219	166	132	192	250	229	184	220	247	257	2543	211.92
実収入	2,782,034	2,034,380	2,439,318	1,867,307	1,456,746	2,089,551	2,813,911	2,534,463	1,923,531	2,401,452	2,656,731	2,837,734	27,837,158	2,319,763
実収入/日	92,734	65,625	81,311	60,236	46,992	69,652	90,771	84,482	62,049	77,466	94,883	91,540	917,741	76,266
居室稼働率(%)	81.67%	65.16%	73.00%	53.55%	42.58%	64.00%	80.65%	76.33%	59.35%	70.97%	88.21%	82.90%	838.37%	69.86%
前年比(%)	95.33%	84.88%	90.12%	60.58%	47.66%	69.57%	86.81%	84.50%	68.65%	95.66%	138.76%	118.49%	1040.95%	86.75%

令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	28	29	27	29	29	28	27	25	23	22	19	23	309	25.75
利用延日数	257	238	243	274	277	276	288	271	268	230	178	217	3017	251.42
実収入	2,576,289	2,456,431	2,469,992	2,786,965	2,859,458	2,834,813	3,299,259	3,104,783	3,106,086	2,660,578	2,047,856	2,457,988	32,660,498	2,721,708
実収入/日	85,876	79,240	82,333	89,902	92,241	94,494	106,428	103,493	100,196	85,825	73,138	79,290	1,072,456	89,481
居室稼働率(%)	85.67%	76.77%	81.00%	88.39%	89.35%	92.00%	92.90%	90.33%	86.45%	74.19%	63.57%	70.00%	990.62%	82.55%
前年比(%)	87.42%	83.50%	88.04%	108.31%	108.62%	110.40%	119.99%	120.44%	128.23%	109.01%	80.17%	88.22%	1232.35%	102.70%

令和5年度
特別養護老人ホームみずき
事業報告書(案)

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホームみずき

施設基本理念

「愛をもって心を込めて安心できる当たり前の暮らしが送れるよう支援します」のもとユニットケアとしてご入居者の個々の状態・生活リズムに合わせたケアを確立し他職種との連携を密に深めることで個別性の高い、手厚いサービスを提供していきました。

施設運営方針

・安定した施設運営

定員 30 名。介護報酬の中で人件費が増大する上、光熱費の高騰に少しでも対応する為、入退居時の空床期間の削減、入院者を出さない為の健康管理、加算の取得、経費の削減に努めましたが、6 年 2 月から転倒骨折事故が続き空床が出ました。

(1)施設整備計画

問題発生が予測される箇所及び水周り等の点検を行い、計画的に整備をおこないました。5 年度は大きな故障なく経過しました。

(2)備品・設備整備計画

- (i) 介護機器、レクリエーション等に必要な備品を整備・入れ替え・補充をおこないます。令和 5 年度は、補助金を活用し、照明の LED 化とコニカミノルタ製 HIHOMEQ という見守り機器を導入しました。
- (ii) 消防設備については年 2 回の専門業者による定期点検の実施と、不備箇所が確認された際は早期の修理・更新実施により、安全対策を徹底しました。
- (iii) 車両の法定定期点検のほか、日常のエンジンオイル交換やタイヤ点検などを励行し、必要があれば適切に修理・交換を実施し、常に安全に運行をおこないました。
- (iv) 各ユニットの備品を適切に管理し、使用に耐えなくなったものについては速やかに処分し、適切に入れ替え等をおこないました。
- (v) 前各項のほか、建物内外のおよび周辺環境の整備、修繕、点検を定期的に行い安全・衛生の確保に努めました。

・人材育成と連携を活かした職場づくり

次世代の人材確保の為、高等学校新卒者採用へ取り組みました。また、ハローワークなどへの連携情報提供をおこないます。しかし、即効性はない為、現職員の育成と定着化として業務改善に努めました。

外部研修への積極的な参加等を通じて、意識改革や向上心のボトムアップを図り、誇りを持てる職場づくりに努めました。

- (i) 年 2 回 の健康診断及び生活習慣病・予防健診の実施。
※ 前年度に異常の所見があった職員に対して産業医との面談の実施。
- (ii) 看護職員及び介護職員には年 2 回の腰痛診断を実施。
- (iii) 管理者、役席者による個人面談を定期的に行い、きめ細やかな意思疎通を図りました。
- (iv) 年間研修・講習計画に基づいて、県及び県老人福祉施設協議会、県社会福祉協議会等
が実施する施設従事者への各種研修・講習会に参加すると共に施設内においても接
遇、虐待、介護技術等の研修を実施して職員の資質の向上を図りました。とくに介護
技術に関しては、安全で、利用者・職員双方の負担の少ないケアの実現を目指しまし
た。
(別添 研修・講習計画書 参照)
- (v) ユニットリーダー、介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護実践リーダー、
胃瘻と喀痰吸引等の事業運営に必須の有資格者の確保に努め、令和 5 年度において
は、喀痰吸引研修 3 名・ユニットリーダー研修 1 名受講しました。

・地域交流の活性化

ボランティアの受入、民生委員等施設開放日、家族交流日の設置
※再開に至っておりません。

事業内容

・日常生活介護 日常生活支援 健康管理

入居者サービス

①健康管理

- (i) 嘱託医、看護師による健康管理を行う。
- (ii) 歯科医師による歯科診療、歯科衛生士による口腔ケアを行う。
月 2 回の歯科医師の訪問を受け口腔衛生に努めました。
- (iii) 感染症予防接種、年 1 回の健康診断を行いました。

②栄養管理

- (i) 利用者個々の状態・体調を考慮し、必要な場合は配置医師による療養食等も含め栄養士
による適切な献立作成はもとより、調理方法、味付け、盛り付けにも配慮し、栄養のバ
ランスが取れた食事提供を行いました。
- (ii) 地産地消に配慮し、季節感のある献立を取り入れました。
- (iii) 嗜好調査を実施し、その評価を分析により入居者が食べたい食事を提供しました。
- (iv) 嚥下食についても内容の充実など食欲増進と安全面の両立を図りました。
- (v) 異物等の混入の防止、感染症等に伴い適切な加熱、常に清潔で衛生的なキッチン環境の
整備に心がけ、安心安全な食事を提供しました。
栄養管理については、体調・嚥下状態・嗜好に合わせ都度、多職種協議の上提供しました。

③機能訓練

兼務の機能訓練指導員（看護職員）と整復師による個人の状態に適した機能回復訓練をおこない身体機能の維持、回復に努めました。

④安全管理

(i) 年 2 回以上(うち 1 回は夜間想定)の避難訓練の実施のほか、消防署・地元消防団とも密に連携を図り緊急時の対応訓練を実施しました。また、火災・地震・風水害・土砂災害等を想定した避難訓練及び連絡網等の非常時に備えた体制を確立に努めました。

(ii) 防災備品、非常食を適正に管理し、消費期限の到来するものは定期的に更新行っています。

⑤行事、地域交流等（感染症の状況により）

(i) お花見や買い物を含むドライブ等屋外活動をおこないません。

(ii) 誕生会、クリスマス会、節分など各ユニットにおいて行事をおこないません。時には複数ユニットで共同実施し、ユニット間の親睦を深めました。

(iii) 地元ボランティア・保育園児の訪問・地域交流活動は再開に至りませんでした。

(iv) 家族交流会等の実施によりご入居様との交流を図ります。

(v) 外部理容師による施設内散髪を定期的におこないません。

安全管理については、施設内のものは実行しております。外部交流については、新型コロナウイルス感染症 5 類移行後も部分的な制限が残った為実行できていません。

令和5年度年間研修報告書

No.	研修名	研修内容	研修時期	研修場所	参加者
1	バーセルインデックス研修	web 講義	5月6日 5月11日	みずき	半澤香代子 鈴木理絵
2	認知症ケア研修	web 講義	6月14日	みずき	古山 康
3	看取りケア研修	web 講義	8月18日	みずき	木村伊織
4	管理者研修	web 講義	7月・8月	みずき	鈴木理絵
5	介護現場で役立つ介護職の為の薬の知識	web 講義	12月8日	みずき	相原恵子
6	食に携わる職員の為のユニットケア	web 講義	2月7日	みずき	斎藤花月
7	アセスメント研修	web 講義	2月11日	みずき	半澤香代子
8	ACP研修	web 講義	1月27日	みずき	木村伊織
9	喀痰吸引研修	web 講義 演習	6月~2月	みずき えんじゅ	八島美樹 菅野直哉 渡邊里香 中野有子
11					
12					
13					
14					
15					

令和5年度

軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき

事業報告書(案)

社会福祉法人 伯和会
軽費老人ホーム ケアハウス やまぶき

令和5年度 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき事業報告

基本方針

軽費老人ホーム(ケアハウス)は60歳以上(但し、60歳以上の配偶者と共に利用する者についてはその限りではない)で所得を問わず、自炊生活が出来ない程度の身体状況且つ、家庭環境や住宅事情などの理由により在宅にて生活が困難な高齢者を入居させ、食・住などの日常生活に必要なサービスを提供し、生きがいを持って健康で明るい生活を送れるよう支援する。

◎入居者の状況(令和6年3月31日現在)

人数 / 年齢

性別	人員	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	17名	97歳	70歳	79.2歳
女性	32名	97歳	72歳	88.7歳
合計	49名			全体平均 85.4歳

年齢階層別人員

年齢 / 性別	男性	女性	合計	比率
60～65	0名	0名	0名	0%
66～70	1名	0名	1名	2.0%
71～75	6名	1名	7名	14.3%
76～80	3名	0名	3名	6.1%
81～85	3名	7名	10名	20.4%
86～90	2名	9名	11名	22.4%
91～95	1名	14名	15名	30.6%
96～	1名	1名	2名	4.1%
合計	17名	32名	49名	

令和5年度入退居者数

	男性	女性	合計
入居者数	3名	5名	8名
退居者数	2名	5名	7名

月別入居者数(毎月末日現在の入居者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計	入居率
4月	17名	31名	48名	96%
5月	17名	31名	48名	96%
6月	17名	30名	47名	94%
7月	18名	32名	50名	100%
8月	17名	31名	48名	96%
9月	17名	31名	48名	96%
10月	17名	31名	48名	96%
11月	16名	32名	48名	96%
12月	17名	32名	49名	98%
1月	17名	32名	49名	98%
2月	17名	32名	49名	98%
3月	17名	32名	49名	98%
(のべ) 合計	204名	377名	581名	97%

年度内入居者の入居前の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	2名	4名	6名
病 院	1名	1名	2名
介護保健施設	0名	0名	0名
その他	0名	0名	0名
合 計	3名	5名	8名

年度内退居者の退居後の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	0名	1名	1名
病 院	0名	2名	2名
老人保健施設	0名	1名	1名
その他	2名	1名	3名
死 亡	0名	0名	0名
合 計	2名	5名	7名

介護保険認定者数

認定外	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合計
10名	0名	7名	11名	17名	4名	0名	49名

入居者の IADL 状況(認定外でも家族等の支援必要な者含む)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
自 立	5 名	5 名	1 名	20.4%
一部支援	12 名	27 名	39 名	79.6%
合 計	17 名	32 名	49 名	

介護サービス利用状況(重複あり)

種別 / 性別	男 性	女 性	合 計
ヘルパー	5 名	12 名	17 名
デイサービス	4 名	12 名	16 名
合 計	9 名	24 名	33 名

行事

オカリナ演奏会 5 月 31 日	(内容) オカリナ演奏 (カナリヤ会 6 名) 入居者 23 名 職員 6 名
敬老会 9 月 22 日	(内容) 「1 部」 日本舞踊 (紅梅会 6 名)・米寿祝等 入居者 36 名 「2 部」 夕食行事食 入居者 46 名 職員 8 名
芋煮会 11 月 15 日	(内容) 昼食 芋煮 (職員味付)・おにぎり・漬物・果物 昭和懐メロ鑑賞等 入居者 44 名 職員 8 名
マジックショー 11 月 29 日	(内容) マジック (マジックサークル遊友佐藤謙吾五様) 入居者 (記録なしの為不明) 職員 4 名
クリスマス会 12 月 22 日	(内容) お茶会 (ケーキ・紅茶)・音楽鑑賞・プレゼント (クリスマスカード・エコバック) 入居者 43 名 職員 6 名
クリスマス行事 12 月 25 日 (夕 食)	(内容) ピラフ・鳥の唐揚げ・デザート・中華スープ 入居者 43 名分 職員 4 名 (栄養士含)

その他

<健康管理等支援>

- ・希望者に対し、水野内科クリニックによる診察 (月 2 回) 隔週木曜
- ・エルム調剤薬局との連携
- ・新型コロナワクチン予防接種 (6 回目) 6/8、6/9 合計 40 名接種
(7 回目) 10/26 合計 33 名接種
- ・インフルエンザ予防接種 11/9 36 名接種
- ・令和 5 年度各種健康診査 (結核・肺がん) 送迎支援
8/29 (10 名) 8/30 (12 名) 合計 22 名

- ・水分補給等の声掛け、本人の状態観察
- ・職員による月1回体重測定

<感染症対策>

- ・アルコール手指消毒設置
- ・入居者への手指消毒、うがい、マスク着用、体調観察、換気の声掛け
- ・各テーブル1名での食事、居室配膳下膳協力依頼

<地域との関わり>

- ・下原地区清掃活動(クリーン作戦) 9/24・3/24 職員1名参加
- ・下原自治会総会 3/24

<職員による生活支援状況>

- ・ごみ回収支援(毎週火・金、各階指定場所に出してもらい、職員がゴミ置き場に片づける)
- ・入居者懇談会(月1回)
- ・食事時の立ち合い、配膳下膳見守り支援
- ・浴室・脱衣室・玄関・共同トイレ・廊下等館内・構内清掃
- ・適宜、ご家族や関係者への連絡・救急対応・生活や健康等に関する支援
- ・白石市図書館移動図書館こまくさ号 月1回(第2か第3水曜日)
- ・園内買物支援
 - 岡崎商店(毎週水曜日)
 - ヤクルト等(隔週水曜日)
- ・出張理美容キララ(第1火曜日)

今年度も経年変化から ADL や認知機能低下がみられる入居者が増加し、本来のケアハウスの立ち位置での運営や支援が難しい状況がみられました。また、入居相談の大半は、要介護認定を受けている方が多く、何かしら支援が必要となっている為、職員の対応ライン、家族や介護保険サービスの活用など、職員の知識や技術を高めていき、ケアハウスでの生活を安心して過ごしていただけるかが今後も模索していく必要があります。入居相談件数自体も多い訳ではなく、入居者選定にも悩ましい状況見られました。今後も各機関への情報提供、顔の見える関係作りを行い、地域に根差した施設作りに努めていきたいと思っております。

令和5年度
デイサービスセンター茶園
事業報告書(案)

社会福祉法人伯和会

デイサービスセンター茶園

運営方針

法人の信条である「奉仕」「博愛」「寛容」を基本とし、ご利用者の人権・人間性を尊重して在宅福祉サービスの目的と意義の実践に徹しました。「安心・安全」「自立支援」「快適」といった基本に基づきながら、ご利用者の心身の特性を踏まえてその有する能力に応じた自立した生活が営むことが出来るよう支援するとともに、ご家族の介護負担軽減に寄与できる事業所となることを目指しました。

重点目標

- ・ 要支援・要介護者の心身の特性・生活環境・残存機能等を踏まえて、その有する能力に応じ自立した生活が営めるように支援しました。
- ・ 職員一人一人が自己啓発目標を掲げ、研修などを通して接遇及び介護技術の能力、質の向上を図りました。
- ・ ご利用者側の視点に立ち、ご利用者ができることを維持、増やすことで、生活意欲に繋がるよう支援しました。
- ・ 地域関係市町村・地域保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努めました。また、より身近な関係者（民生委員、自治会長等）との定期的な運営推進会議を実施しました。

事業計画（地域密着型通所介護）

1 基本サービス主要実施概要

① サービス提供時間

- ・ 9時30分から16時30分の7時間で実施しました。状況に合わせてピストンでの2便送迎を実施しました。

② 利用定員

- ・ 18名。

③ 相談指導

- ・ 送迎時や電話、連絡帳、茶園便り等を通し、相談や助言を行ないました。

④ 健康管理

- ・ 毎利用時に、表情などの状態確認、血圧、脈拍、体温の測定、月1回の頻度での体重測定を行い、各利用者の健康状態の把握に努めました。
- ・ 排泄状況・食事摂取量・水分摂取量・精神状態などの観察を行いました。

⑤ 機能訓練(レクリエーション)

- ・介護予防の観点からより効果的に心身機能の維持・向上が図れるよう、各利用者の状態及び主体性を重視した内容のレクを実施しました。
- ・定期的に節の行事を取り入れ、季節感や社会との繋がりを実感できるように工夫しました。
- ・利用者の趣味や特技を生かした活動を積極的に実践しました。

⑥ 入浴

- ・身体の清潔保持と精神的な満足感が得られるよう、利用者の身体状況に応じた入浴または清拭を行いました。

⑦ 食事

- ・利用者の嗜好並びに状態に応じた食事を提供しました。行事の際は、季節に合わせた献立内容を考え、見た目にも楽しめる食事の提供を工夫しました。

⑧ 口腔ケア

- ・口腔ケアの重要性について、職員・利用者・家族等に周知徹底し、食後の口腔ケアを実施しました。

2、職員の資質向上

- ① 法人内外の会議・研修会等に参加し、福祉・介護に対する知識・技術の向上と、自己覚知からの本質的な資質向上を行いました。
- ② 他施設や各方面からの情報収集を行い、各事業所の長所を参考にしてサービスの見直し・向上を行いました。

3、地域との交流活動

- ① 地域と密接した在宅福祉サービスを図るため地域の習慣や風土を理解し地域の拠点としての福祉サービスのネットワーク作りに努めました。
- ② ボランティアの受け入れ、活用を行い、地域と顔の見える関係性を築こうと計画していましたが、コロナ感染予防対策で行えませんでした。

4、防災対策

- ① 伯和会災害マニュアルの周知を行い、災害時の対応、避難方法等について職員、ご利用者が迅速に対応できるよう避難訓練等を行いました。また、BCP 計画書策定も行いました。
- ② ご利用者、ご家族との緊急時の安否確認や連絡方法等を確認しました。

5、年間目標

- ① 地域密着型通所介護の利用定員は1日18名で越えてはならないと決まっている中、年間稼働率85%以上(1日平均15.3名)を目標としましたが、ショートステイや体調不良などで、欠席が多く目標には至りませんでした。新規利用者獲得のため市内

の介護支援専門員への働きかけ（空き情報提供や介護支援専門員との関係性作り）を行いました。他事業所との交流などは、感染予防対策の為実施来ませんでした。

- ② 各種加算の見直し、検討を行い、介護報酬が最大限得られるように努めました。
- ③ 登録者以外の臨時利用について、要望には積極的に臨時利用の対応を行って、利用者数の確保に努めました。

6、設備、備品

- ① 浴室、ホールと南向きであり、夏場はよしず等で暑さ対策をしているが冷房能力が追い付かず、室温が30度を超えるような状況となる場合が見られており、今年度も適宜改善策を実施しました。
- ③ 新たなレクや質の向上を図るため、情報誌など活用し、活動に活かしました。

7、令和5年度利用者・行事实績（別紙）

- ・新型コロナウイルスの感染症が5類に移行したといえ、利用を控える方も数名おりました。年間を通して、感染対策は、送迎時の検温、消毒、到着時の手洗い、消毒と行いました。その他、利用者同士、一定の距離をおいて利用者の方の座席を配置して対応しました。
- ・新たなレク等を随時取り入れ、また、季節に応じた行事を企画し季節感を感じていただくなど、利用者の満足度を高めるようにしました。
- ・心身に刺激となるレクリエーションを行うよう工夫し実施しました。

(別紙)

I. 令和5年度3月最終週の登録者：定員18名

月	火	水	木	金		
11	15	14	14	18		
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2	4	7	12	10	5	2
実登録人数 42名			延べ登録人数 72名			

※要介護度別人数は3月のレセプト情報より集計

※総合事業対象者の要支援1相当は要支援1、要支援2相当要支援2へ含む

II. 令和5年度利用状況 ※1か月延べ利用人数

利用月	通所介護	1日あたりの平均	予防、総合事業	1日あたりの平均	1か月合計人数
4月	218	10.9	14	0.7	232
5月	222	11.1	12	0.6	234
6月	236	10.7	20	0.9	256
7月	219	10.4	16	0.7	235
8月	243	10.5	18	0.7	261
9月	226	10.7	18	0.8	244
10月	230	10.4	17	0.7	247
11月	237	10.7	17	0.7	254
12月	243	11.5	12	0.5	255
1月	208	10.4	11	0.5	219
2月	202	10.1	16	0.8	218
3月	220	10.4	17	0.8	237
年合計	2,704		188		2,892

III. 活動内容

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	割鍋閉蓋	ペタンク	輪っかりレー	ひらがな合わせ	
5月	制作物	鯉のぼりゲーム	ふりふりゲーム	輪っかりレー	脳トレ
6月	ナイスフィッシング	さ傘でアタック	スカットボール	脳トレ	
7月	七夕飾り作り	うちわでピンチ	剣道め〜ん	ペタンク	
8月	脳トレ	ふりふりゲーム	豆つかみ	夏祭り	タオル体操
9月	ペタンク	脳トレ	カーリング	棒体操	
10月	一網打尽	ひらがなカード	芋煮会	風船運動	数字合わせ
11月	数字合わせ	ペタンク	隣の晩御飯	割鍋閉蓋	カレンダー作り
12月	スカットボール	測量ゲーム	お楽しみ会	ひらがなカード	
1月	新年会	お年玉聖火リレー	だるま落とし	輪っかりレー	脳トレ
2月	ペタンク	棒体操	豆つかみ	ひらがな合わせ	
3月	輪っかりレー	数字合わせ	ふりふりゲーム	スカットボール	

令和5年度

居宅介護支援センター茶園

事業報告書（案）

居宅介護支援センター茶園

令和5年度 居宅介護支援センター茶園 事業報告

- 1、 ご利用者様の自宅を訪問、ご利用様の心身の状況、置かれている住環境等を把握し、総合的な視点から、居宅介護サービスおよび必要な保健・医療サービス、福祉サービスを総合的かつ効果的に提供されるように専門的な立場から支援を行いました。
- 2、 主任介護支援専門員として、医療機関および介護サービス事業者に出向き事業所の特徴を把握し、ご利用様に正確な情報を伝えるよう努めました。また、医療機関および介護サービス事業所と連携を図り、ご利用様をチームで支援できるように、サービス担当者会議等の調整会議を積極的に開催しました。
- 3、 白石市地域包括支援センターおよび民生委員から処遇困難ケース・末期がん・生活困窮者・ご家族の支援が必要なケース・一人暮らし高齢者の相談あり。その支援のため、インフォーマル（地域住民・ご親戚・民生委員）およびフォーマル（医療機関・福祉事務所・介護サービス事業所等）サービスを構築することから、ご利用様がご自宅で安心安全に生活できるよう支援を行いました。

居宅介護支援センター茶園（事業報告）

1.居宅介護支援利用実績（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

(1) 居宅介護支援利用状況

月	新規契約件数	国保連請求件数	介護サービス 実績なし件数	契約終了件数
4月	0	19	1	0
5月	0	18	1	1
6月	1	19	1	0
7月	2	21	1	0
8月	0	20	2	0
9月	1	21	2	1
10月	0	20	1	0
11月	0	20	1	0
12月	1	20	2	0
1月	0	20	0	2
2月	0	20	1	1
3月	0	19	0	0
合計	5	237	13	5

(2) 介護予防支援利用状況

介護予防ブ ラン 新規	介護予防ブ ラン 請求	契約終了件数
1	3	0
0	3	0
0	3	0
0	3	0
1	4	0
1	5	0
1	6	0
1	7	0
0	7	0
1	8	0
1	8	0
0	9	0
7	66	0

2.会議・研修等の実績

- (1) 居宅サービス計画担当者会議 15回実施
- (2) 第1回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加（4/18 総会・令和5年事業計画）
- (3) 第3回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加（8/2 ゲートキーパの役割）
- (4) 令和5年度 白石市高齢者虐待防止対策推進会議 1名出席（10/16 白石市の現状）
- (5) 第4回白石市介護支援専門員連絡協議会 1名参加（10/17生活に活用できるツールの確認）
- (6) キャラバンメイト・住民ボランティア研修会 1名参加（11/10 認知症当事者から学ぶ）
- (7) 白石市自立支援地域ケア会議 1名参加（12/20）事例発表
- (8) 令和5年度介護サービス事業者集団指導（3/25 令和6年度介護報酬改定について）
- (9) 伯和会 内部研修会の開催 12回開催（毎月最終月曜日）

3.伯和会法人 他事業所支援

- (1) 地域密着型デイサービスセンター茶園（利用者送迎）

8：30～ 9：30 朝送迎支援

16：30～17：30 夕送迎支援

毎日（2時間×20日）40時間（5日分）

- (2) 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき（土曜・日曜・祝日の日直業務）

毎月2日間（8時間×2日間）16時間（2日分）

事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人伯和会